



外国出張報告書

平成27年11月13日

1. 出張国名 タイ、ラオス、マレーシア
2. 出張月 平成27年7月～10月
3. 出張目的 1. 森林の炭素蓄積能力及び林産物収穫許容量の評価
 2. 林産物の持続的生産のための休閑林の管理手法の開発
 3. チークの材質を考慮した植栽適地の判定技術を確立：C

4. 成果の概要

持続的林業プロジェクトでは、現存量調査の結果、これまでと同様に幹の胸高直径データと地上部および地下部現存量の間に強い相関関係が確認された。公共林における非木材林産物（NTFP）の利用実態調査では調査対象村の村民は低収入であり、NTFPの販売によって生計の支えになっていると考えられた。

インドシナ農山村プロジェクトでは、NTFPとしての利用価値が高い植物を異なる光環境下に植栽し、光環境と成長との関係を調べた。その結果、種によって苗の生存と成長に好ましい光環境は異なることが考えられた。

科研費の調査では、マレーシア国内でチーク植栽地での試験を開始するために、Perlis州のMata Ayer 研究ステーションを訪問し交渉した結果、同ステーションのチーク林において調査することが可能になった。また、高速道路沿いのチーク林調査は既存の調査区であれば調査が可能になった。